

アートライティング

芸術学科 アートライティングコース

TR テキストレポート科目 S スクーリング科目 必 必修科目

※下記でご紹介する科目は2024年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

アートライティングコース専門教育科目

STEP①

アートライティングの基礎を学ぶ。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
アートライティング特講1	アートを書く・文化を編む	S	必	2		導入科目。アートライティングの概念とその射程を学ぶ。
アートライティング演習1	ディスクリプション	S	必	2		作品や活動の具体的な記述の仕方について実作を通じて学ぶ。

STEP②

アートライティングの方法論を知る。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
アートライティング特講2	芸術研究の方法論	S	必	2		芸術を理論的に研究するための方法論を学ぶ。
アートライティング特講4	まちを描く	S	必	2		都市のさまざまな文化を記述するジャンルと方法について学ぶ。
アートライティング演習4	インタビューの方法論	S	必	2		インタビューを実践し取材記事にまとめるプロセスを体験する中で、取材調査をおこなうための基本的な方法や、そのようにつくられる情報や作品にはどんな可能性があるかについて学ぶ。
アートライティング演習5	書評を書く	S	必	2		読み手に伝わる書評の執筆を実践する。

STEP③

批評的視野と編集意識を身につける。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
アートライティング特講3	現代批評論 歴史・理論・実践	S	必	2		批評がどのような理論に基づいて実践されてきたのかを学ぶ。
アートライティング特講5	記録資料と芸術表現	S	必	2		ドキュメンテーションと芸術活動の能動的な関係を考察する。
アートライティング特講6	アートパブリッシング	S	必	2		アートライティングの編集と公開について、実践的な例をもとに考察する。
アートライティング演習2	クリティカル・エッセイ	S	必	2		批評的な視点を持った文章制作法を実地に学ぶ。
アートライティング演習6	ノンフィクションライティング	S	必	2		事実を基盤とした「物語」、それがノンフィクション。ノンフィクションの構造を学びながら、単に記録をなぞるだけではない、読者に「行動」を促すような文章の書き方を理解することが、目的となる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
卒業制作準備	自主制作準備	S	必	2		学生個々が選択したジャンル、スタイルで試論を執筆する。
卒業制作	自主制作	S	必	4		卒業制作準備での指導をもとにして試論を完成させる。

- ・アートライティングコース専門教育科目のS科目は、オンデマンドによる遠隔授業です。3ヶ月ごとに開講され、「春期・秋期」の開講、「夏期・冬期」の開講に分かれています。
- ・「卒業制作準備」は4年次の夏期開講、「卒業制作」は4年次の秋期～冬期開講です。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キイ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。
美術史学基礎	TR	2	有	日本・東洋・西洋美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献購読を通して、作品をどのように見たらいいのか、また作品をどのように解釈したらいいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
地域芸術理論	TR	2	有	地域環境は、季節や行事などいろいろな要素の周期的繰り返しによって規定される特定の型をもった場所である一方、それはいつも可変的な状態にある。地域環境における具体的な「生」の姿を注視することにより、その「生」がどのようなカオスと闘ってきたかを考察する。
京都学入門	TR	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト『京都の歴史』を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを目指す。
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料を読むための基礎を理解できる科目群。
日本文化の源流	TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得るためのテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつか取り上げ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約1000年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取り上げながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
音楽文化論	S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的な理解を目指す。
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。

科目名	S/T	単位数	単位修得 試験	履修内容
京都学研修1	S	1		[京都]は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		